

H26年・明德緑地自然観察会まとめ

平成26年の観察会参加者数は208名でした。

明德緑地自然観察会

1月 25日(土) 9:30~12:00 天候 晴れ 参加者17名(指導員 布目、堀田、堀田時、久村、高木) テーマ「冬芽の観察と渡り鳥」



観察会の集合場所が、明德池の東岸なので、水鳥の観察がすぐ出来る。池に面した木にコサギが11羽、ゴイサギ6羽の姿。水面には、マガモ、カルガモ、カイツブリ等も元気に滑空したり、潜ったり、泳ぎ廻ったりしていた。冬芽の観察では、①ヤマコウバシ②ザイフリボク③ヤマハゼ④コバノミツバツツジ⑤コブシ⑥ガマズミ⑦ネ

ジキなどをじっくり観察する。この中に三大美芽と言われるのがあるという説明で、写真の赤い芽鱗から毛ばったっているザイフリボクの冬芽を始めて見た。今回は冬芽をじっくり見られてよかったと感想が聞かれた。あと、カワセミが飛ぶ姿も観察出来たし、メジロ、シジュウガラ、コゲラなど群れの集団が見られた。姿は見られなかったが、ウグイスの地鳴きも聞くことが出来た。



明德緑地自然観察会

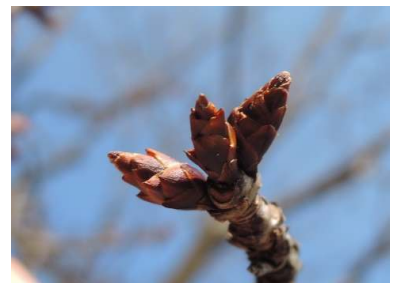
2月 22日(土) 9:30~11:30 天候 晴れ 参加者16名(指導員 布目、堀田、堀田時、久村、妹尾、高木、高谷) テーマ「芽吹きで春の気配を感じよう」



観察会の1週間前の2月14日は雪が積もったばかりで、防寒着での観察会となった。先月の続きで冬芽の観察と、冬ならではの樹形の観察となった。明德公園の地図を片手に今、どちらの方角に向かっているか、登っているのか、下っているのかも確認をした。高台に上がれば、雪を被った御岳山や中央アルプスを見ることが出来、今までとは違った感激。樹形では、ケヤ

キ、アベマキ、コナラ、エノキなど、冬芽では、ヤマザクラ、コバノミツバツツジ、ネジキ、ザイフリボク、コナラなどを観察。参加者から突然上を向いて、「ノスリだ!」との声、カラスと空中戦をやっているようで、双眼鏡でよく見れました。

野鳥では、コゲラ、メジロ、シジュウガラの混群が見られ明德池には、アオサギ、ゴイサギ、コサギが木に数十羽止まっていた。例年、2月の観察会で見られる、アカガエルの卵、



色が付いてきたヤマザクラの冬芽

は今年はまだでした。近くの梅林で花が一輪、二輪で、少し春の気配が遅いと感じました。

3月 22日(土) 9:30~12:00 天候 晴 参加者 16名(指導員 布目、堀田



時、久村、高木) テーマ「ミクロで見る！春の足音」全国一斉自然観察会にエントリーして開催。観察ポイントを20ヶ所にしぼり、虫眼鏡でじっくり観察した。①ヒサカキの花、雄花、雌花、中性花②カンヒサクラ、満開③ヤマコウバシ④ガマズミ⑤ジャノヒゲ⑥タラノメ⑦イヌビワ⑧ニワ



トコ⑨コバノミツバツツジ、開花寸前⑩ザイフリボク ⑪コナラ⑫ネジキ⑬ボケの花⑭サクラのツボミ、2、3日後には開花しそう。⑮春の草花、タンポポ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、タナツケバナ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カラスのエンドウ⑯カマツカ⑰タカノツメ⑱ウス

ノキ⑲ニホンアカガエルの卵、今月はありました。⑳アズキナシ

参加者の感想は、ヒサカキの花の違いを始めて見ました。葉の芽をじっくり見ると、春かなと感じられた。こんな観察会もたまにはいいと思った。

明德緑地自然観察会

4月 26日(土) 9:30~11:30 天候 晴れ 参加者 23名(指導員 布目、堀田時、久村、高木、横田、古間木) テーマ「新緑とガマズミ、アズキナシの花」

すっかり暖かくなり、気持ちのいい観察会日和、緑地は新緑に囲まれ、樹木の花がよく見られる。まず、アズキナシ、明德公園内には、大きなものが5本あるが、どれも、白い花をいっぱい着けていた。ガマズミはミヤマガマズミの花が終わり、



コバノ

ガマズミは花が見られ、ガマズミはつぼみであった。カマツカも今が満開といったところ。ウラジロノキも白い花、サワフタギは日当たりのいい所は花が咲いていて、そうでないところはまだ、つぼみであった。ヤマフジが咲き、キリの花も例年より早く花を付けていた。草花では、紫の色のカキドウシの群生がみられた。

3月の終わりにアカガエルの卵を多数確認した水辺では、オタマジャクシとなって泳いでいた。観察会終了後、名東区の40周年記念の旗を囲み記念撮影をした。いっぱい花を付けたカマツカ

明德緑地自然観察会

5月 24日(土) 9:30~12:00 天候 晴 参加者 14名(指導員 布目、堀田時、久村、高木、妹尾)



テーマ「ネジキの花とスイカズラの花」まずは、「ネジキ通り」なる、ネジキの群生している所へ。甘い香りに包まれている。ここに、ナツハゼもあり、花の色、どの枝が花を付けているのか両者の観察。スイカズラは、処々で見ることが出来たが、白色と黄色が並んで咲き、金銀花と言われる意味が良く判った。ソヨゴの花も咲いており、雄花と雌花の違いも判った。4月の観察会でつぼみだった、ガマズミの

花が咲き出していた。白い花では、ウノハナ、イボタも満開。明德池の対岸にセンダンの花が咲いており、紫色に覆われたように見えたが、花を近くで見られる所で観察すると、淡紫色の花の集まりで、中心部が色が濃い紫であった。地味な花では、スタジイやアラカシ、マテバシイなどブナ科の雄花が目立ちムシも集まっていた。地味な花では、他の観察会で見たということで、明德公園で始めてエンシュウムヨウランを見つけてくれた。



エンシュウムヨウラン

明德緑地自然観察会

6月 28日(土) 10:00~12:00 天候 晴れ 参加者 46名(散策サポーター19名)
テーマ「初夏の花と半夏生」



この日は、名東区自然散策会として実施。散策会は散策サポーターが駆けつけてくれるので、賑やかになる。2班に分かれて明德公園を散策。この時期の見所は、ハンゲショウすっかり葉っぱを白くさせ、花も付けていた。参加者は、お楽しみゲームシートで、ゲーム感覚でいろいろ見てもらった。葉っぱいろいろビンゴでは、「葉っぱに針が出ている」「小さな葉っぱ

が集まっている」「グー・チョキ・パーがあるよ」など見つけたらチェックをしてもらおう。花いろいろクイズでは、シャシャンボ、ネムノキ、ネジバナ、アカメガシワの花を当てて貰う。案内する人と参加者が、ワイワイ話しをしながら、散策出来るようにしている。あとヒメコウゾの実が赤く熟していたのも観察できた。



明德緑地自然観察会

7月 26日(土) 9:30~12:00 天候 晴 参加者 14名(指導員 布目、堀田時、高木)



テーマ「水辺の生き物と樹木の昆虫」

水辺の植物は明德池にミゾハギとセリの花が見られた。春先に花を付けていたのは、実に成長しているものがあつた。ミツバアケビ、ナンキンハゼ、シャシャンボ、アカメガシワ、マユミなど。

花で目立ったのは、クサギの花で花糸(雄しべの柄)が長いのが特長で、甘い匂いがした。また、園芸種のハギが植栽されて

いるが、もう花をつけていた。

樹木の昆虫は、セミがアブラゼミ、クマゼミ、ニイニゼミの姿や抜け殻を確認した。また、ノコギリクワガタ、ゴマダラカミキリを捕獲したが、シロスジカミキリは木に掘った大きな穴が多数あつた。後、先月観察したハンゲショウのところについて見たが、葉の白さが大分緑に戻っていた。



落ち葉の下にノコギリクワガタ

明德緑地自然観察会

9月 27日(土) 9:30~12:00 天候 晴れ 参加者18名(指導員 久村、堀田時、妹尾、高木、布目)

テーマ「秋の野草とドングリ」



秋の野草ということでこの日は、ミズヒキの花をルーペでしっかり観察した。花は4枚の花被片で上側は赤色、下側が白色。「思ったよりきれい。」は参加者の声。散策道に植栽されているハギも満開であった。公園にはミヤギノハギがよく植えられると聞いている。公園を歩いていると、アベマキのドングリがいっぱい落ちていた。誰かがドングリ工作に

使いたいということで、みんなが協力してドングリ拾いはじまった。近くにはクリのイガが落ちていたが、誰かが中身を取ったあとばかりであった。ガマズミの実はすでに赤くなっていた。シャシャンボの実もいっぱい付けて後は色づくのを待つばかりである。マテバシイも木にドングリを付けていた。カキの木の実が色付きメジロが沢山集まっていた。そこへ、腹が白いコサメビタキと思われる鳥が飛んできたが、確信はない。あと、サワフタギとマユミの実も観察できた。



明德緑地自然観察会

10月 25日(土) 9:30~12:00 天候 晴れ 参加者13名(指導員 布目、堀田、堀田時、高木、横田) テーマ「野鳥と木の実」

10月の観察会になると、赤い実が目立つようになる。マユミ、ガマズミ、ウラジロノキ、カマツカ、フユイチゴ、カナメモチなど、赤くはないが、サワフタギ、キミズミ、センダン、シャシャンボなど。葉っぱでは、ヤマハゼ、ソメイヨシノ、カスミザク



ラが紅葉をしていた。展望のきくグラウンドに



てみると、いつも見ていた御嶽山が噴煙を上げているのが見られ、綺麗だね！では終わらない、自然の驚異を感じた。野鳥は、明德公園では、余り見たことがない、コジュケイ

が2週間ほど前から入っているという情報があったが、この日は出会なかった明徳池で、アオサギをみただけでした。先月観察できずガッカリしていた、サクラダテの花(写真)は、今月見ることができた。

明徳緑地自然観察会

11月 22日(土) 10:00~12:00 天候 晴 参加者 31名(散策スタッフ16名)

テーマ「赤い実、落ち葉、秋のいろどり」



この日も名東区自然散策会として実施された。名東区役所と共催の形となり、スタッフとして、散策サポーターが駆けつけてくれる。事前に本日のコースと、当日の見どころや注意事項などミーティングを行い、散策終了後は、スタッフミーティングを行い、ひとりひとり、参加者の様子、どこに関心を示したか、進め方の問題点など情報を交換しあう。

また、一般参加者には、“お楽しみ、ゲームシート”

を渡し、秋によく目立つ樹木として、エノキ、サクラ、アオハダ、ナンキンハゼを見てもらった。赤い実ビンゴでは、ソヨゴ、カラスウリ、ガマズミ、マユミ、カキノキ、フユイチゴ、アズキナシ、クロガネモチ、ウラジロニキを9コマにして、見たらチェックをして見てもらった。参加者の感想、1、紅葉がきれいだった。2、空気が美味しい。3、フユイチゴが美味しかった。4、紅葉がいろいろ見られて、いい秋の一日だった。5、近くに住んでいるが、この公園を別の視点で見ることが出来た。



マユミの木の实